

NO.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	男 70代	前立腺癌 (下垂体 腺腫)	3.75mg 1回	<p>下垂体卒中</p> <p>投与2年前 : 頭痛の原因精査のためにMRIを実施したところ、鞍内から鞍上部にかけて腫瘍(25×35×20mm)が認められた。内分泌学的検査で異常を認めず、非機能性下垂体腺腫と診断され、患者の希望により経過観察としていた。</p> <p>投与日 : 前立腺癌と診断されたため、本剤を投与したところ、投与30分後より頭痛、嘔気、左動眼神経麻痺、外転神経麻痺が発現し、脳神経外科に入院した。入院時の意識は清明で、また、下垂体前葉機能低下症や尿崩症はなかった。また、CTでは明らかな腫瘍内出血を認めず、待機手術とした。血中コルチゾール値は正常、遊離型T₃・T₄は軽度低下していた。</p> <p>入院時検査所見: コルチゾール17μg/dL, 遊離型T₃ 1.8pg/mL, 遊離型T₄ 0.8ng/dL</p> <p>投与1日後 : MRIにて腫瘍上部に壊死を示唆する所見を認めた。</p> <p>投与2日後 : 下垂体機能不全に対し補充療法を開始した。</p> <p>投与3日後 : 血圧低下、血中コルチゾール値低下(3.1μg/dL)を認めた。</p> <p>投与9日後 : MRIにて腫瘍内部の壊死の進行を示す所見を認め、また、腫瘍内出血を認めた。</p> <p>投与13日後 : 経蝶形骨洞手術により血腫および腫瘍を除去した。</p> <p>投与10ヵ月後 : 左外転神経麻痺が軽度に残存し、下垂体機能不全あり。</p>	企業報告
併用薬: 不明					